



# がんの親をもつ Teenager を支える Teen CLIMB®プログラム 日本版開発 に向けた取り組み

## 支援者を対象とした Teen CLIMB®養成講座の実践報告

赤川 祐子 (秋田大学大学院医学系研究科 看護学講座)

大沢 かおり (国家公務員共済組合連合会 東京共済病院)

井上 実穂 (独立行政法人国立病院機構四国がんセンター)

小林 真理子 (聖心女子大学 心理学科)

# 発表者の利益相反開示事項

がんの親をもつ Teenager を支えるTeen CLIMB®プログラム日本版開発に向けた取り組み

講演演題

～支援者を対象とした Teen CLIMB®養成講座の実践報告～

		該当あり・なし	基準に該当ありの場合：企業名等
企業等の職員	あり	なし	
企業等の顧問職の報酬	あり	なし	
株式等配当	あり	なし	
講演料等	あり	なし	
原稿料等	あり	なし	
受託研究費(治験等・医療機器等の現物を含む)・寄付金等	あり	なし	[企業名、研究期間、支払い予定時期]
専門的証言・助言等	あり	なし	
贈答品等	あり	なし	
研究責任者氏名			所属/身分
企業等の職員	あり	なし	
企業等の顧問職の報酬	あり	なし	
株式等配当	あり	なし	
講演料等	あり	なし	
原稿料等	あり	なし	
受託研究費(治験等・医療機器等の現物を含む)・寄付金等	あり	なし	[企業名、研究期間、支払い予定時期]
専門的証言・助言等	あり	なし	
贈答品等	あり	なし	

# 背景

- ・ がんの親をもつ18歳未満の子ども 約8万7千人 (Inoue, 2015)



約半数



約4割

- ・ 思春期の子ども (Teenager) は、自我形成が促進し自立に向かう一方、親から多くの愛と助言を必要とする
- ・ 親のがんにより、日常生活や親子関係の変化、同世代との比較をし、心理社会的影響を受ける場合がある

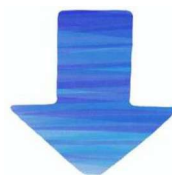
→ **Teenager の心身の発達を守る支援が課題**



# 目的

米国で開発されたteenagerに対する支援プログラムを基に、  
(Teen CLIMB)

日本文化やteenへの適用・実現可能性を検討する



## 【研究1】

### 実践者による適用可能性の検討

Teen CLIMB養成講座を実施  
アンケート・インタビュー調査

## 【研究2】

### Teenagerによる実現可能性の検討

Teen CLIMBの体験後インタビュー



笹川保健財団 研究助成（2024-07）を受けて実施

# Teen CLIMB®とは

- 2020年 The Children's Threehouse FoundationのWendyらが開発
- **日本**ではがんの親をもつ思春期の子どもへの体系的なプログラムは**初**。
- NPO法人Hope Tree代表理事の大沢がファシリテーター養成の資格を得た。

- 12～18歳のTeenを対象とした非公開グループ。
- 毎週2時間、6週間集まる。
- 親グループの集まりも同時並行する。





# Teen CLIMB® の目的

トレーニングマニュアル原文

- がん、がん治療、がん体験について**年齢に応じた教育を提供**する。
- 愛する人のがんに関してteenが経験する様々な**感情を落ち着かせ**、そうした感情が**正当なもの**であることを理解してもらう。
- ティーンにツールや教育を提供し、愛する人の病気に伴うストレスや**強烈な感情を認め、表現し、効果的に対処**できるようにする。
- 愛する人ががんになった**teen同士が知り合う場**を設け、感情やストレスへの対処方法を改善する機会を与える。
- 愛する人のがんに関する経験や感情を共有することができる、**安全な場所を提供**する。



# Teen CLIMB®の構成



回	目的	気持ち	アクティビティ
1	愛する人のがんの話を他人と共有し、孤独感を和らげる	幸せ・楽しい	愛する人のがんと私
2	がんとその治療について知識を得る	混乱	病院・クリニック 見学ツアー
3	悲しみの感情を表現し、緩和する	悲しい	気持ちのお面づくり
4	Teenの持っている強さを引き出し、不安を緩和する	怖い・不安	強さの箱作り
5	怒りの感情を適切に表現し、対処する方法を考える	怒り	ターゲット・プラクティス
6	がんと診断された愛する人とのコミュニケーションの手助けをする	別れの言葉と区切りの重要性	音楽と歌詞、励ましの言葉

# 特徴

## 日記

テーマがある

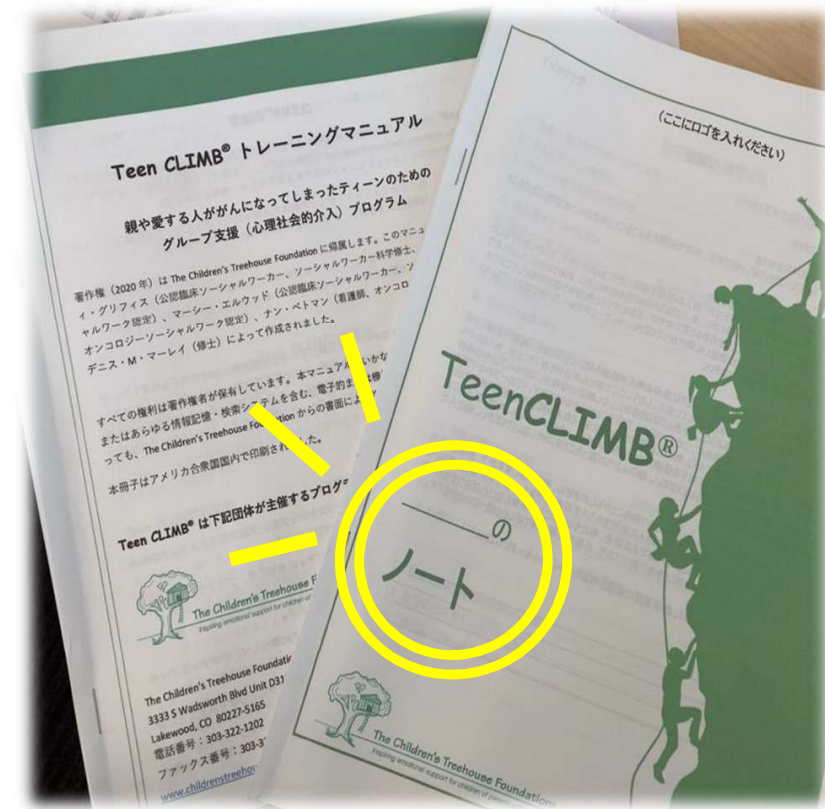
例：「大切な人ががんになった時どう感じたか」  
「家族の中で変わったことはあるか」  
「家族のために何か願うことはあるか」等。

## 音楽

自分の共感する歌や歌詞を共有する

## 詩

自宅で読めるような付録として  
例：思春期や喪失に関するもの





**支援者を対象とした**

**Teen CLIMB®養成講座の実践報告**



# 方法



- 2024年7月 Teen CLIMB®養成講座を開催
- 対象：**小学生版CLIMB®養成講座を修了した医療関係者**  
思春期・青年期に関わる**教育関係者**
- 養成講座の前後にアンケート調査
  - 前 Teenager との関わりの困難や学びのニーズ、子どもへの配慮
  - 後 講座の満足度、開催可能性等

# 結果

参加者：21名（医療者18名、教育関係者3名）

- ・Teenとの関わりに困難あり 19名（95%）



ファーストコンタクトとその後のコミュニケーションの取り方

Teenのもつ大人との距離感に合わせること

自発的な感情表現を促し、ニーズを把握すること

感情表現のきっかけをみつけること

信頼できる大人として認めってもらう過程

子ども自身が大人や病院に抱くイメージによるコミュニケーションへの影響

関係性を構築するための機会や時間が少ない

# Teenとの関わりで配慮していること

安心感のある環境作り

感情や思いを十分に聞く  
姿勢を示す

無理に深堀せず、teenの  
ペースを大切にする

相手の脅威にならないように  
自然体で接する

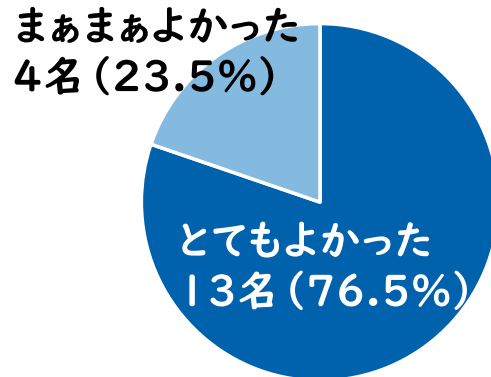
過度に介入しない  
バランスを考える

## 参加者の学びのニーズ

- ・ 思春期特有の特徴や発達段階と配慮する点、適切な介入方法
- ・ 思春期の子どもが直面する困難
- ・ 児童向けプログラムとの違いや共通点

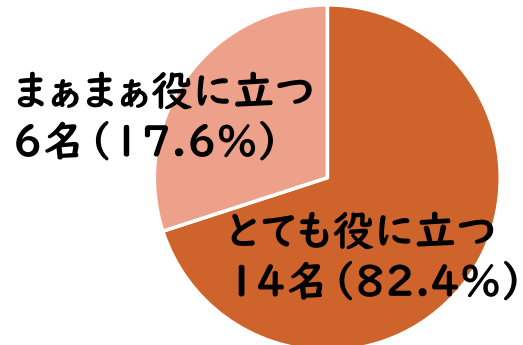
# 養成講座の評価

## ●満足度



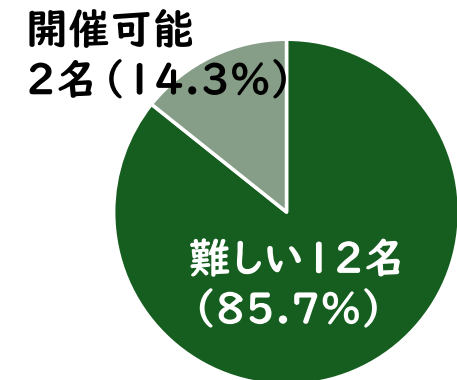
「アクティビティの体験ができたこと」  
「思春期の特徴の理解を深められた」等

## ●今後



「苦手意識が減った」  
「自己の支援を内省できた」等

## ●施設への導入



「組織の理解」「スタッフ養成」  
「資金・場所の提供」等



# 考察 Teenとの関わりの難しさ

感情表現の促進

時間や機会の不足

距離感の調整

思春期特有の心理的特徴（自己防衛的態度、自立心の強調など）と密接に関連、支援者にとっても大きな課題。

支援者は、teenとの関わりにおいて適切な対応を模索している

# 考察 養成講座として

**満足度は高い！**

プログラムの理解

苦手意識の軽減

アクティビティ体験が

思春期の子どもに対する支援スキルの向上に寄与する。

# 結論

- Teen CLIMB養成講座でのプログラム体験は、思春期の理解を深めることにつながり、実践的な内容であった
- 支援者の困難は、Teenager との信頼関係を構築するためのコミュニケーションであった
- 今後は日本語版開発に向け、プログラムの適切性を検討する

**2025年6月14日**

**Teen CLIMBファシリテーター養成講座（東京）開催予定**

注：対象は小学生版CLIMBファシリテーター養成講座に参加済みの方

NPO法人Hope Tree ホームページより周知予定

